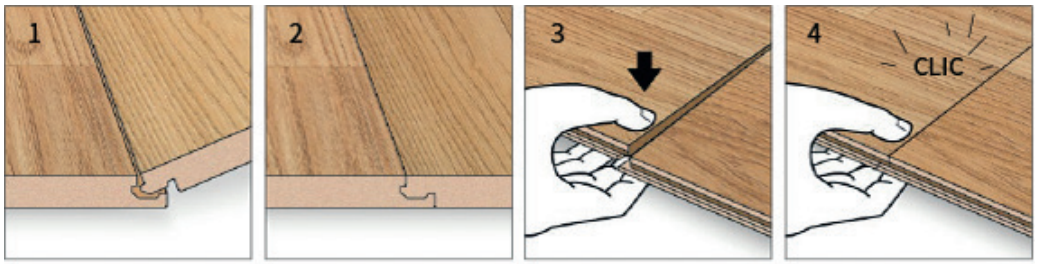
KRONOTEX
FLOORS FOR LIVING
クロノテックスジャパン株式会社

施工マニュアル

クロノテックス ラミネートフロア

『接着施工』



施主様、設計士様、営業担当者様へ　1

「施工ミスの要因」　2

「接着施工」のメリット・デメリット　2

「接着施工」の詳細説明　3

Clic2ClicとExpress Clicの説明　裏表紙

はじめに

この度は、クロノテックスラミネートフロアをご検討いただき厚く御礼申し上げます。
フローリングなどの床仕上げ材は住宅用であってもスリ傷やキャスター傷に強いフロア材が必要です。
世界でフロア材を普通歩行用（住宅用）と重歩行用（非住宅用）に区別しているのは日本だけであると思われます。このため日本の住宅用フロア材は「傷に強い商品」でも世界レベルの耐摩耗性はありません。
ラミネートフロアには床仕上げ材として多くの必要な機能と高い性能があり、既にドイツ、イギリス、フランス、アメリカ合衆国などの欧米では住宅や非住宅の30%以上に使用されています。
ドイツ　クロノテックスはラミネートフロアの最大手企業で世界85カ国に輸出しています。クロノテックスラミネートフロアの品質は欧州規格EN13329で担保され傷や凹みそして薬品などにも強い商品です。
クロノテックスラミネートフロアの全ての商品は住宅でも非住宅でも安心してご使用いただけます。

弊社は、クロノテックスラミネートフロアの説明を「ガイドブック」（別冊）と「施工マニュアル」で説明しています。「施工マニュアルV4」（本紙）では、クロノテックス商品をご検討中の施主様、設計士様ならびに営業担当様にクロノテックスラミネートフロアの正しい施工方法をご説明する目的で記載しております。

ラミネートフロアは施工上の特長として、ラミネートフロアを床下地材に固定しない置敷施工が可能です。接着剤を使用しない置敷施工は日本では制限の多い施工方法で、置敷施工ができない物件もあります。置敷施工ができない物件では、施工自由度が高い接着施工も御検討ください。接着施工は施工自由度が高く従来の木質系フロアと同じ施工となります殆どの物件で施工可能です。
「置敷施工」と「接着施工」のメリットとデメリットをご理解いただき２種類の施工方法から用途や目的に合った施工方法をお選びいただければ幸甚です。

施工ミスについて

■『接着剤も釘も使用しない簡単施工』の置敷施工説明は誤り

ラミネートフロアは接着材や釘をしない置敷施工ができますが、置敷施工には置敷施工のルールがあり、施工ルールを無視すれば「施工ミス」となり床が突き上がります。

- 置敷施工は、接着材や釘などでフロア材を床下地材に固定してはいけない施工。
- 置敷施工は、壁や上がり框そして敷居などでもフロア材と適度な隙間が必要な施工。
  （これらのルールを無視しますと置敷施工ではフロア材が突き上がることがあります）

①施工ミスの事例

- 施工マニュアルを読まずに施工する（「施工は簡単」などの説明が誤解を与えている）。
  「上がり框」とフロアの納まりだけ接着剤で固定し隙間を無くすことはできません。
- 施工業者に施工ルールを無視した施工指示をする（数例あり）。

②施工ミスが発生していない事例

- 施主様ご自身によるフロート施工。
  施工マニュアルを熟読され疑問点は質問され解決しているため。
- 接着施工（接着剤、接着剤と釘の併用）。
  施工慣れした複合フローリング施工と同等な施工のため。

『接着施工』のメリット・デメリット

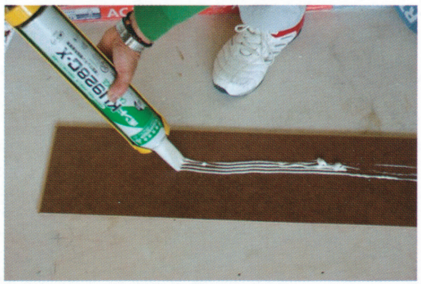
■接着施工 ※下地は合板などの木質系のみ可能です

【接着施工の概要説明】

①床下地材とラミネートフロアを接着剤で固定する床施工。（ステープルやフニッシュ釘の併用可能）
②複合フローリングの施工と同等の施工。
③モルタルなどへの直貼りは不可です。置敷施工としてください。

【メリット】

①複合フローリング施工と同等なため床施工業者の施工経験が活かせる。
②上がり框とフロア材、敷居とフロア材の納まりは複合フローリング施工と同等。
③連続施工面積の上限が大幅に拡大する。
④第5世代エクスプレスクリック施工のため、接着剤施工でも
施工時間は複合フローリングの施工時間より早い。
⑤逆張り施工や、床勝ち施工（床先行施工）が可能。
⑥幅木や見切り材は市販品が使用でき、総コストも安価となる。



【デメリット】

①フロア材を損傷せずに剥がすことができない。

接着施工

■接着施工の注意事項（重要な施工ルールです）

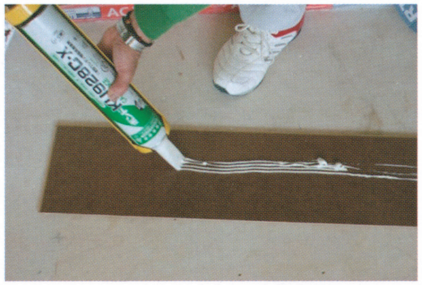
- **床下地材の確認：**
  不陸は1メートル当り3mm以下に補修する。
  合板捨て張り、二重床、既存フローリングなどが可能です。

- **全てのラミネートフロアを床下地材に接着剤または接着剤と釘で固定する：**
  防湿シートやクッションシートは接着剤施工では使用できない。
  ツーバイフォー住宅で床に撥水剤が塗布してある場合は接着剤の効果があるか
  接着剤メーカーまたは撥水剤メーカーに問い合わせる。

■エクスプレス クリックの接着施工の説明

①（施工業者様）複合フローリングの直貼り施工と同じ施工方法です

複合フローリング施工経験者様へは特段の説明は不要ですが、下記が注意点となります。



a) 接着剤は硬化後に弾力性のある「1液ウレタン」などの接着剤を使用してください。
b) ラミネートフロアの下端のサネはフロア釘を打つことができます。
c) サネは本実では無く、加工精度の高い最新式クリックを採用していますので嵌合作業ではハンマーは不要です（使用禁止）。ゴムハンマーであれば使用可能です。
d) 精度の高いクリックのため、サネ（下端のクリック）にゴミやオガ屑が入ると嵌合しづらい場合があります。
e) フロア材はカットした残材を含め常に水平な状態で保管してください。
f) ラミネートフロア施工は1列目と2列目の施工精度が特に重要です。詳細はフロート施工の説明をご覧ください。
g) フロア1列目が精度よく施工できた状態で、フロア1列目の下端のサネを釘止めすると接着剤が硬化する前にフロアが固定されるため1列目の釘止めをお勧めいたします。

②（施主様施工）接着施工ではなく置敷施工をお勧めいたします

施主様施工では、多くの方が施工をされています。
施工でも施工後の施工ミス（床の突き上がり）報告は稀有ですのでご安心ください。
施工マニュアルを読まれ、ご不明点は質問されるため施工ミスが発生していないと思われます。
施主様による施工のアドバイスは以下の通りです。

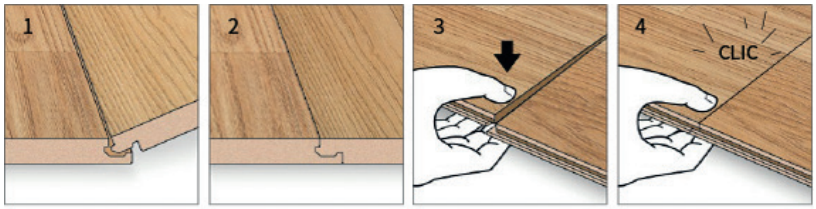
a) フロア周辺の隙間を隠すのか（隙間を隠さない場合は幅木も見切り材も不要です）
b) 先ずは、代用品を含め幅木や見切り材をホームセンターなどで探し、幅木や見切り材に合ったフロア施工（特にフロア周辺の隙間の大きさ）とします。
c) フロアと壁などの隙間精度はプラスマイナス3mmとし、幅木（代用幅木）の厚さは余裕を持たせた厚み（幅）とします。隙間5mmでは9mm以上の幅木を使用しますと施工は簡単となります。欧州では隙間10mmに対し厚さ15mmや20mmの幅木（一般的なサイズ）を使用するためラミネートフロアの施工は簡単と説明しています。
d) 貼り始めの場所を決める（施工の難易度は貼り始める場所で大きく変わることがあります）
e) **置敷施工では上がり框とフロア材の隙間をなくすことはできません。**

メ　モ

クリック ツー クリック　エクスプレス クリック

Clic2ClicとExpress Clicの説明

ラミネートフロアの長辺と短辺にはクリック（Clic Click）と呼ばれる特殊形状のサネ加工がされています。クリックは本実が進化したもので、本実より早くて正確なフロア施工ができます。クリックの形状は進化し続け、クリックの進化はラミネートフロアの施工方法を進化させています。ラミネートフロアの施工方法は複数あり、サネを接着剤留めす施工、フロア材の長辺と短辺をハンマーで叩き入れる施工、フロア材の短辺だけをハンマーで叩き入れる施工などの組み合わせで5種類から7種類の施工方法があります。
クロノテックス ラミネートフロアの施工は専用工具もハンマーも使用しない最新式クリック施工を採用しています。フロア材長辺のクリックはClic2Clic、短辺のクリックにはとExpressClicを採用することにより施工時間は従来品の約半分、そして静かなフロア施工が可能です。フロア材を傷つけること無くクリックの解除ができますので、施工時の仮施工やフロア材の再利用など多くのメリットがあります。



クロノテックスジャパン㈱

〒381-0024 長野県長野市南長池 280-8
TEL 026-267-0311
FAX 026-267-0312
Mail info@kronotex.jp

http://kronotex.jp

本紙は予告なしに改訂することがあります。最新の施工マニュアルは弊社サイトでご確認ください。
（本紙記載内容の無断転用を禁止いたします）

発行日
2016年10月21日

『接着施工』マニュアル
追記のお知らせ

当社発行の施工マニュアルにおいて下記のとおり
追記をさせて頂きます。

**接着施工の場合、下地は9㎜以上の合板下地で根太等下地へ
しっかりと固定されている事が条件となります。
その他の場合はご相談ください。**

クロノテックスジャパン株式会社